

なじらね.jp

なじらね

春

どっとじゃーピー

平成 24 (2012) 年 3 月 31 日 (土) 発行 - 第 7 号 -



【発行人】「にいがた青年海外協力隊を育てる会」会長 平山 征夫 / 事務局長 横山 容司郎
The Supporting Organization of JOCV NIIGATA
【事務局】〒950-2012 新潟県新潟市西区小針台1-15 株式会社 アルファブライト 内
Tel. 025-234-1500, Fax. 025-234-1002, E-mail ; n-sodaterukai@alpha-bright.co.jp
URL <http://n-sojocv-najirane.com>
【題 字】藤田 美枝子 (※「なじらね」とは、新潟弁で「元気ですか?」の意味)
【編集人】広報文化専門委員会 山田 規央

- NAJIRANE Headlines -

【巻頭言】「なじらね.jp」第7号の発行に寄せて	1
【壱】平成23年度理事・役員会（第3回）開催のご報告	2
【貳】啓発活動のご報告	2
【参】本県出身のJICAボランティア(JV & SV)が任国へ赴任！ (平成23年度2次隊、平成23年度3次隊)	3
【四】本県出身JICAボランティアによる近況報告 Information等	4 - 7 8

本紙面文中で、「青年海外協力隊」の英語表記の略称として「JOCV」を用いてきましたが、今後は「JV」と致します。
「シニア海外ボランティア」は「SV」のままです。会名の英語表記については変更ありません。

公式ホームページ随時更新中！

<http://n-sojocv-najirane.com>

【巻頭言】 「なじらね.jp」第7号の発行に寄せて

にいがた青年海外協力隊を育てる会 理事
堂前 洋一郎（新潟県立新発田病院 副院長）

青年海外協力隊を育てる会にかかわらせていただき、青年海外協力隊というのはすごいものだと感心させられています。異文化の中、言葉もうまく通じないところで何もなくて組織を立ち上げ、目的に向かって邁進する行動力にただ頭が下がる思いです。

この年になると応援でしか参加できませんが、チャンスがあればひそかにシニアの部にでも、と思っています。

さて、東日本大震災から1年が過ぎ、復興も徐々には進展していますが、あまりにも大きな災害で完全に復帰するまでにはまだまだ時間がかかりそうです。やはり、この復興を推進していく原動力になるには、「よそ者」「若者」「ばか者」（第1回にいがた青年海外協力隊を育てる会で羽賀先生から地域を変えるにはとのお話の中で聞いた記憶があり、まさしくこれが青年海外協力隊隊員）ではないでしょうか。

最近、海外留学を希望する高校生、大学生は減少してきていると聞いています。あまりにも何でも手に入る満ち足りた生活を送っているからでしょうか。若い人がもっと海外で働くという夢を持つように、この会から小中学生に経験談を語る機会を作ってほしいと願っています。



【告】 平成23年度理事・役員会（第3回）開催のご報告

去る11月5日(土),「にいがた青年海外協力隊を育てる会」の第3回理事・役員会を開催致しました. 新潟県における「JICAボランティア家族連絡会」を当会と新潟青年海外協力協会が運営するようになってから今年で3回目となります. 理事・役員会をこの日に実施する理由は留守家族の方々に当会の存在を知って戴く大変良い機会であると思うからです. 更に理事・役員会終了後に留守家族の方々, 留守家族会に協力して下さった協力隊OBの方々との懇親会を開催し, お互いの交流を深めることもできました. 以下, 理事会の内容を簡潔にご報告致します.

●日 時 : 2011年11月5日(土), 16:40~17:20

●会 場 : 新潟会館

●参加者 : 会長, 副会長, 理事, 幹事 8人/運営委員 7人 (※委任状 9人)

1) 協力隊事業の県内アピールについて

県内の業界団体の定例会にて協力隊事業について説明させて頂く, 特にライオンズクラブ, ロータリークラブ, ソロプチミストなどの経営者団体をターゲットにお願いしようということになりました. 理事の中には, これらの団体の会員となっている方がおられるので, まずはそれらの団体から始めることになりました. 早速ですが, 第1回目として12月8日に小泉委員の紹介で見附ロータリークラブの例会にて講演をさせて頂きました. また, この企画について, 育てる会本部も大変協力的で, 「希望があれば東京からも出張します。」との連絡が来ています.

2) 主催イベント(出前講座)について

引き続き, 本会主催の出前講座や募集説明会を県内の教育機関(大学等)で積極的に実施していくことを確認しました(学園祭等も利用). 今年も新潟産業大学や新潟医療福祉大学で学生相手に募集説明会が実施されました. 新潟医療福祉大学は協力隊事業に対し, 大変積極的に支援して頂いている大学です. 同大では, 毎年のように卒業生が青年海外協力隊に応募されていますし, 来年度から「協力隊に参加しながら大学院の学位を取得できる」という日本初のプログラムを実施することになっています.

3) 前期活動報告

本年4月から10月までの活動内容を事務局より報告して頂きました.

4) 協賛広告のお願い

役員の方々に, 当会会報紙「なじらね.jp」とホームページへの協賛広告をお願いしました. また, カレンダーもたくさんご購入頂いたことをここにご報告します.

(文: 横山 容司郎 / 写真: 山田 規央)



【式】 啓発活動のご報告

当会が推進している, JICAボランティアの現職参加と帰国後の県内就職について県内企業各社に理解を深めて頂くため, 会員や協力隊経験者のご紹介により機会を得て, 下記場で啓発活動を行ないました. 参加者の中には, 「社員を現職参加で派遣したい」といった声も聞かれました. 今後も, 帰国隊員が県内で力を発揮していただける様に, 現職参加と帰国後の雇用について啓発を進めていきます.

1) 見附ロータリークラブ (当会会員・小泉勝OV, 佐々木朋子OVのご紹介)

日時: 平成23年12月8日(木) お昼(例会), 場所: ホテルつるや
講師: 横山容司郎事務局長, 参加者: 10人

2) 新潟西ライオンズクラブ (当会会員・佐々木かおる新潟市議のご紹介)

日時: 平成24年3月21日(水) お昼(例会), 場所: ホテルイタリア軒
講師: 横山容司郎事務局長, 参加者: 24人

3) 長岡のライオンズクラブ4クラブ合同 (当会会員・楚山恭男OVの企画)

日時: 平成24年3月24日(土) 16時~, 場所: 長岡まちなかキャンパス
講師: 平山征夫会長, 菊池威臣氏(育てる会本部), 参加者: 32人



(文: 山田 規央 / 写真: 横山 容司郎)

【参】 本県出身のJICAボランティア (JV & SV) が任国へ赴任！ (平成23年度2次隊, 平成23年度3次隊)

本県出身の青年海外協力隊(JV)・シニア海外ボランティア(SV), 平成23年度2次隊(H23-2)の新隊員6人(JV 5人+SV 1人)が平成23年9月下旬に, 平成23年度3次隊(H23-3)の新隊員8名(JV 1人)が平成24年1月下旬にそれぞれの任国へと出発しました。新隊員は訓練所での約70日間の派遣前訓練終了後に本県に帰郷し, それぞれ9月13日, 12月16日に新潟県庁および新潟県国際交流協会に表敬訪問を行ない, 両日共に当会からは横山事務局長が同伴致しました。これに併せ, 各訪問日の最近に帰国した本県出身のH21-1およびH21-2の帰国隊員の内, それぞれ1人(JV 2人)および7名(JV 3人+SV 1人)も同行し, 帰国報告を行ないました。表敬訪問の夜には, 新潟県青年海外協力協会(JOCA新潟)と共催で, 新隊員壮行会&帰国隊員慰労会を実施しました。当会としては, 任国で活躍する本県出身隊員の活動を地域ぐるみでサポートしていけるように取り組んでいきます。

各隊員の紹介と抱負は次の通りです。

新隊員 (H23-2)	任国	職種
JV ①五十嵐 勇樹 さん	ホンジュラス共和国	理学療法士
②猪浦 智史 さん	マラウイ共和国	公衆衛生
③長谷川 真知 さん	インドネシア共和国	栄養士
④中山 博之 さん	ウガンダ共和国	小学校教諭
⑤山田 優 さん	ドミニカ共和国	環境教育
SV ①石垣 稔 さん	フィジー諸島共和国	水産物加工

任地の方々が求めていることを感じ取り, 寄り添って活動をしていきたいです。

現地の人たちが自身の力で活動していけるように援助していきたいです。

ケガなく, 事故なく, 元気に2年間頑張っていきたいです。

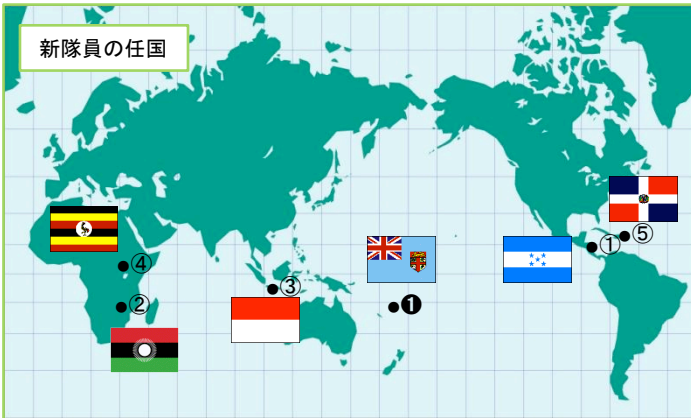
現地に何かを残していきたいです。

無理せず健康第一。人と人のつながりを大切に活動していきたいです。

多くの笑顔と出会えるよう, 楽しんで活動してきます。

帰国隊員 (H21-1)

JV: ①坂田 香奈恵 さん (エルサルバドル共和国/作業療法士)



新隊員 (H23-3)	任国	職種
JV ①小西 晴香 さん	ネパール連邦民主共和国	野菜栽培

現地の方々から学ぶ意識で一緒になって活動したいと思います。

帰国隊員 (H21-2)

JV: ①久嶋 美和 さん (パラグアイ共和国/看護師), ②志田 保子 さん (バングラデシュ人民共和国/助産師), ③篠田 敏規 さん (ケニア共和国/エイズ対策)

SV: ①明間 篤夫 さん (マレーシア/職業訓練校支援), ②加藤 康雄 さん (ブータン王国/有機栽培), ③長沢 潔 さん (モロッコ王国/ビデオ番組制作), ④平野 正 さん (ボリビア多民族国/鋳造冶金)



地図と国旗は「世界地図・世界の国旗」HPより引用 (<http://www.abysse.co.jp/world/index.html>)

(文: 山田 規央 / 写真: 佐脇 奈都代)

関 千鶴 Ms. Chizuru Seki, JV

（平成22年度4次隊／ミクロネシア連邦／村落開発普及員）



Q1; 任国や任地はあなたにとってどんなところですか？

ミクロネシア連邦ポンペイ州に派遣されてからもうすぐ1年が経ちます。生活もだんだんと慣れ、ポンペイがもう一つの故郷と感じるようになりました。ミクロネシア隊員は原則ホームステイなので、私にもホストファミリーがいます。一緒に暮らしているホストマザーはとても優しい方で、ミクロネシアにも『家』ができました。

Q2; 現地の人々の生活状況はどんな様子ですか？

ミクロネシア連邦は約607の島々から成り立ち、4州に分けられ、州・島によって人々の暮らしは異なります。私はポンペイ州の中心地、コロニア市に住んでいて、水・電気ともに安定しています。平日は仕事のある人は仕事に行き、仕事がない人は家でんびりしています。宗教によりますが、多くの人は日曜日に教会に行きます。バナナやタロイモなどの現地食が多く育っている一方で、調理時間が短く簡単という点で、多くの人はお米やインスタントラーメン等の輸入食品を食べています。ポンペイは世界的に降水量が多い地域で、毎日のように土砂降りの雨が降りますが、子どもたちは雨を気にせず元気に外で遊んでいます。ポンペイの人々はサカオという木の根を叩いて水と混ぜ絞った飲み物が好きです。鎮静作用があるようで、日本の居酒屋とは違いサカオバーではみんな静かにサカオを飲んでいました。

Q3; あなたはどんな活動をしていますか？

私の配属先はIsland Food Community of Pohnpeiという、『Let's Go Local!』というスローガンに基づき現地食の啓発活動をするNGO団体です。ポンペイ及び他ミクロネシア連邦3州では約3人に1人が糖尿病を患っていると言われています。現在、ミクロネシア連邦が抱えている生活習慣病の問題は、食生活の変化と運動不足によると、配属先は考えています。ポンペイのバナナ、タロイモ、ヤムイモ、パンの実などの現地食には多くの栄養素が含まれることが研究でわかっており、生活習慣病解決策の一つとして、多くの現地食を育て（運動）、食べていくこと（栄養）を進めています。私の主な活動は、ミクロネシア連邦の新聞に記事を載せたり、ラジオや他のメディアを通しての啓発活動です。また、現地スタッフとともにコミュニティを訪れ、現地食の利益（文化、健康、環境、経済、食糧安全の面から）について話します。小学校配属の隊員と共に学校での食育授業も行なっています。

Q4; これまでに嬉しかったこと、辛かったことは？

小学校での食育活動後、一つのクラスが学期末のパーティーに現地食を取り入れた料理を多く用意したり、ソーダには砂糖が多く入っているからと、果汁の入ったジュースに変更してくれたことは、目に見える成果としてとても嬉しかったです。辛かったことは特にありませんが、初めの6ヵ月は時間が過ぎるのがとても遅く感じ、どのような活動をすればよいのかもわからなかったので困りました。

Q5; 今後の予定や抱負を教えてください。

残り1年の任期、メディアを通じた啓発・学校での食育活動を継続し、また私が離れた後も現地スタッフが活動で役立つ様な情報を収集し、それを現地スタッフにきちんと伝えていきたいと思っています。



算数隊員とともに食育×算数教育を行っている公立小学校4年生



ソケスマウンテンからの眺め



コミュニティでの活動の様子（農家の方がバナナの苗の説明をしている）

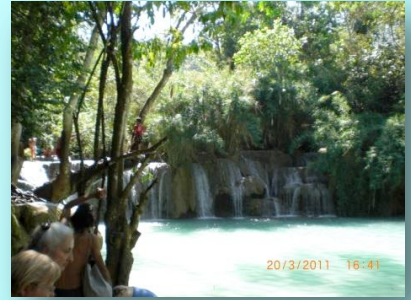
伊藤 悦子 Ms. Etsuko Ito, SV

(平成22年度3次隊／ラオス人民民主共和国／観光促進)



Q1; 任国や任地はあなたにとってどんなところですか？

ルアンパバンは1995年にユネスコ世界遺産都市に指定されラオスの観光名所として栄え、コンパクトなリゾートという印象です。メイン道路の中心には王宮国立博物館があり、革命前の歴史を垣間見ることができ、その道路を挟んで向かい側にそびえ立つボーシーの丘の頂上からはルアンパバンが一望できます。ワットシェントンは最も有名なお寺で三重式になっている屋根が特に印象的であり、ルアンパバンのロゴにも起用されています。お寺は60以上あり、早朝には托鉢の為お寺の周りを歩いて連なり住民からお恵みを鉢に入れてもらう僧侶を見ます。ルアンパバンは国を誇りに思っている人々が多く住む町で、英国生活の長い私にとって忘れていたアジアの文化や習慣の良さを蘇らせてくれました。日本というすばらしい国に生まれたことに感謝し、いつも私を応援してくれる両親や家族の大切さを再認識させてくれた国です。



Q2; 現地の人々の生活状況はどんな様子ですか？

観光局の若いスタッフの月給は日本円で約4千円で、観光地のため比較的物価が高く、これでは生活は困難です。そのためスタッフのほとんどは副業を持ち、家族の生活を支えています。貧富の差が激しく、ホテルやゲストハウスを経営する人たちは日本車を持ち、大きい家に住んでいます。一方、農民は貧しく、食べるので必死です。ただ、ラオス人は国民的に穏やかで明るい気質を持ち、ゴシップは好きだけどマイペースで、競争意欲は感じられません。典型的な家は高床式で木造、一般の家では煮炊きは牧や炭を使うので外で行われ、土間的な作りになっています。お祝い事の際は自宅前の道路にテーブルや椅子を並べ、昼夜関係なく宴会をします。こういう時は全く人の迷惑も考えず、まわりも苦情を言わないので、私にとっては不思議な国です。



Q3; あなたはどんな活動をしていますか？

ルアンパバンの朝はとても爽やかです。玄関を出るとヤシの木や庭の熱帯植物が視界に飛び込み、その背景には山々も見え、周辺で飼われている鶏の鳴き声で、遅くとも5時頃には目が覚めます。朝食後7時40分頃に家を出て、町の中心にあり家から5分あまりのところにある観光局まで自転車で通勤します。オフィスでは朝一番にスタッフと共に掃除を行ない、8時にはメールをチェックします(赴任当初、インフォメーションセンターはゴミ貯めのように散らかっていた)。私の英語力も重宝されており、スタッフに週3回教え、英訳もよく頼まれます。昨年12月に国体があった時、通常ラオ語しかないプログラムを英訳し、観光客に喜ばれました。2月には、ラオス最大の象祭りがサニアブリ地方で開催され、スタッフと共にルアンパバン・インフォメーション・ブースを3日間運営し、観光情報を提供しました。最近では、ホテルからレストランやスパのメニューの日本語訳の依頼もあります。



Q4; これまでに嬉しかったこと、辛かったことは？

嬉しかったことは、インフォメーションセンターを12月に土日とも休まずオープンしたことです。私がボランティアで最初の土曜日を開けたことにより、必要性を上層部に理解してもらえ、スタッフを翌週からおいてもらうことができました。これは私の活動目標の一つでした。また、1月7日に観光局の新年会があり、その日は私の誕生日だったこともあり、サプライズで盛大にお祝いしてもらい、とても嬉しかったです。辛かったことは、ルアンパバンに赴任してゲストハウスに滞在中、身体中虫に刺され大変な思いをしたことです。



Q5; 今後の予定や抱負を教えてください。

2012年は観光年、ルアンパバンでは3月9日に観光年宣言が行われました。ラオスは観光促進と伝統文化保護のバランスをとりながら、日本が失いつつあるアジア文化の根本を守ろうとしています。一人でも多くの観光客に来てもらい、また来たいと思ってもらえるように、残り一年間、スタッフと共に一生懸命活動に励みたいです。



Democratic Republic

荒木 風太 (旧姓：小柳) Mr. Futa Araki, Former JV
(平成21年度3次隊 / ブータン王国 / 電気・電子設備)



Q1; 任国や任地はあなたにとってどんなところでしたか？

任地は首都からバスで2日程かかる人口100人にも満たない小さな村でした。たいした野菜も店も娯楽もない、山だけのところでしたが、おれにとって最高の場所でした(でももう住まなくていいかな～)。

Q2; 現地の人々の生活状況はどんな様子でしたか？

仕事は頑張らないけど遊びは頑張る、素敵な生活を送っています。トウガラシが主食で、ほとんどの料理は激カウ&激ウマで、それらを毎日食べています。トウガラシを食べすぎるとう腹痛いーとか言っていますが、やっぱり毎日食べています。

Q3; あなたはどんな活動をしていましたか？

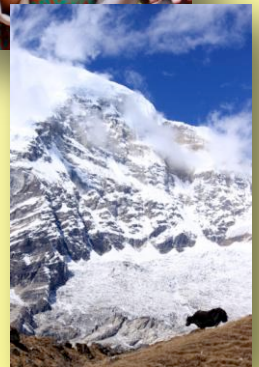
訓練学校で電気の指導をしていました。飲酒・喫煙・恋愛禁止の厳しい学校でしたが、一緒に酒を呑み、煙草を吸い、△▽を見せる、模範にならない先生をしていました。

Q4; 任期中、嬉しかったこと、辛かったことは？

現地に溶け込みすぎて、現地語でしか話しかけられなかったことが嬉しくもあり、面倒でもありました。目標の標高5,000mを超えた時は最高でした。辛かったことは、定期的に来るものすごい下痢。

Q5; 今後の予定や抱負を教えてください。

旅館の婿に入り、ただいま若旦那として修業中です。鬼嫁に叱られない様に、日々精進して参ります。



【さまざまな生活文化ルポ】第3弾

任国の“住” リポーター：桐生 朋文, JV
(平成22年度3次隊 / ザンビア共和国 / 理数科教師)



私の任国ザンビアの「住」についてご紹介させていただきます！

まずは、ザンビアの農村地帯で今でも見られる、伝統的なスタイルの家屋です(写真①)。ザンビアは雨期と乾期が明確に分かれているため、木材を得るための森林が殆どありません。そのため、土を重ねてレンガを作り、草で屋根を葺いたこのような家が主流となってきました。通気性が良いので、日差しが強くても家の中はひんやり涼しく、家の中で火を起こして料理をすることも可能です。電気や水道が通っていない地域も多いのですが、そうした地域では集落共通の井戸に水を汲みに行き、炎だけが夜の明かりになります。最近ではソーラーパネルが普及し、電気は通っていないのにテレビや携帯電話は持っている、という家庭も増えてきています(写真②)。伝統的な家屋の前で、ソーラーパネルで充電した携帯電話を使いこなすザンビア人。ちょっと意外かもしれませんが、こんな光景も段々一般的になってきているようです。

勿論、全てのザンビア人がこのような家に住んでいる訳ではありません。首都ルサカや、私の住んでいる地方都市マザブカのように、都市部に暮らす人々の家はコンクリート造りの家ばかりです。日本のアパートのような集合住宅もあれば、大きな庭やプールのついている家もあります(写真③)。しかし、そんな家に住めるザンビア人はまだまだ少数派。郊外に足を伸ばせば、コンパウンドと呼ばれる低所得者層の住宅街が広がっています(写真④)。

「都会に出ていけば家の中に水道があって電気も毎日使える」と希望を抱いて農村から出稼ぎに来て、結局は満足な職業を見つけることが出来ず、こうした不衛生な住環境での生活を余儀なくされている人々も数多くいます。



Republic of

Zambia

※活動の様子はブログでもレポートしています！⇒ <http://jocvzambiakiryu.blog136.fc2.com/>

平野 正 Mr. Tadashi Hirano , Former SV
(平成21年度2次隊／ボリビア多民族国／鑄造冶金)



Q1;任国や任地はあなたにとってどんなところでしたか？

ボリビアの任地は高地が多く、最初の任地は標高4,000mのLa Pazでしたが、派遣中SVが高山病でよく倒れるということで、駒ヶ根研修中に任地変更になり、アンデス山脈の標高2,600mにあるCochabambaになりました。しかし、私はその地で高山病に悩まされ、1ヵ月ほど体内の血中酸素濃度が上がらず、危険な状態が続きました。そのまま回復しなければ、再度、低地に任地変更となるどころでしたが、3ヵ月くらいでようやく体が高地に順応し、2年間無事に活動を継続できました。中南米スペイン語圏でのSV活動はメキシコ、アルゼンチンに続き3カ国目ということもあり、任地の風俗習慣には問題なく溶け込むことができました。

Q2;現地の人々の生活状況はどんな様子でしたか？

ボリビアは中南米最貧国と言われるだけあり、街にはインデヘナの浮浪者が溢れ、治安も悪く、国内のどこかで毎日デモが起っていました。私が赴任した当日には、デモ隊と警官隊との激しい衝突が発生し、ホテルの直ぐ傍で流血暴動や警察車両の焼き打ちなどがあり、騒然としていました。また、任期終了帰国旅程時も国内各地で道路封鎖が行われ、予定を早めて任地を離れ、無事に日本に帰国出来ました。現地のインデヘナの人々の食生活はジャガイモなどの野菜が中心で、日本人と同様な食生活をしています。また、ボリビアには日本人移住地が数カ所あり、日系の方々が生産している日本食材の入手も簡単に出来ました。

Q3;あなたはどんな活動をしていましたか？

私の指導科目は鑄造技術でした。現在のボリビアの鑄造技術は日本の30年前位のレベルであり、私が日本で鑄造工場に勤務し始めたころの経験が指導に大変役立ちました。活動内容は、派遣先のCochabamba商工会議所に所属する鑄造鑄物工場8社の巡回指導でした。指導内容は不良品対策、無駄などの原価低減指導、新製品開発など多岐に渡る指導を要請されました。比較的技術力のある工場では、試行錯誤の末、ボリビアで初の、たこ焼き鉄板と鯛焼き鉄板の製造を行い、100枚ほどボリビア国内で販売出来ました。フェリアと呼ばれるお祭りが頻繁にあり、たこ焼きや鯛焼きの実演販売がボリビアの人々に大変好評でした。

Q4;任期中、嬉しかったこと、辛かったことは？

任地Cochabambaには、野原しょう子さんという日本人シスターが町のごみ箱や廃屋に捨てられた障害のある赤ん坊や子どもたちを収容し、個人で育てている施設があります。妻と一緒に、その施設の活動のお手伝いを2年間、微力ながらもすることが出来、私たちが帰国時に施設の方々から「ありがとう」と言ってもらえたことは本当に嬉しかったです。その施設が運営するお土産店では、私が作った鯛焼き鉄板が毎日活躍しており、地元の人々に鯛焼きが販売され、食べられています。任期中は派遣先の同僚友人たちに恵まれ、いつも助けて頂き、嫌な思いをすること無く、2年間無事に活動を続けることが出来、感謝しております。

Q5;今後の予定や抱負を教えてください。

2011年10月に任期が終了しましたが、鑄造工場各社が新鑄造技術導入のため新工場を建設中で、技術指導を引き続き要請された為、2012年9月に再度同じ任地にSVとして2年間派遣されることになりました。



Cochabambaの人々と開催した東日本大震災支援チャリティ募金フェリアで、現地鑄造工場で製作した「たこ焼き鉄板」にてたこ焼きの実演販売に奮闘する地元の高校生たち。



野原しょう子シスターの運営する障害者孤児支援施設のフェリア出店で、現地鑄造工場で製作した「鯛焼き鉄板」にて鯛焼きを実演販売する地元の女性。

※ご紹介してきたそれぞれの国がどこにあるのか、どういう国なのか、調べてみましょう！

- INFORMATION -

1. 平成24年度JICAボランティア春募集のご案内

平成24年4月1日(日)～5月14日(月)の期間、青年海外協力隊(20-39歳)・シニア海外ボランティア(40-69歳)の志願者の募集が行なわれます。

詳しくは、下記へご連絡またはJICA公式HPでご確認下さい。→ <http://www.jica.go.jp>

【お問い合わせ】JICA新潟デスク・本田さん Tel. 025-290-5650 / Fax. 025-249-8122

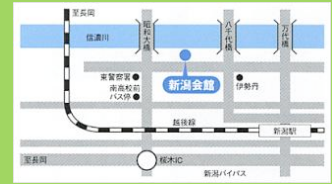
2. 平成24年度にいがた青年海外協力隊を育てる会・総会(第4回)のご案内

日時: 平成24年6月16日(土), 15:00～(予定)

会場: 新潟会館(新潟市中央区幸西3-3-1 Tel.025-247-9307) →

内容: 昨年度の活動報告と今年度の活動方針、帰国隊員報告会、懇親会(お一人4千円) ※お誘い合わせ可能です。

【お問い合わせ】当会事務局まで(会員には後日ご案内を郵送)



新潟会館HPより引用 (<http://www.niigata-kaikan.com>)

3. JICA新潟デスク(国際協力推進員)担当者交代のお知らせ

佐脇 奈都代 さん(平成21年6月～平成24年3月) ⇒ 本田 龍輔 さん(平成24年4月から赴任)

※連絡先(オフィス、電話、メールアドレス)は変更ありません。

当会では新潟県青年海外協力協会と共催で年4回(3月、6月、9月、12月の各中旬頃)、新潟県から派遣される新隊員の壮行会および新潟に帰国した隊員の慰労会を開催しています(新潟駅前にて)。会員へのご案内は随時、メールマガジンで配信しています。



(写真: 佐脇 奈都代)

- The Advertisement -

私達は新潟から青年海外協力隊を
応援しています!
金属加工のことならABCにお任せ下さい

相場産業株式会社 **ABC**
〒955-0814
新潟県三条市金子新田1691-5
Tel.0256-35-7460, Fax.0256-35-7462
URL <http://www.abc-tool.co.jp>

壊れた自転車は、電話一本でOK!
出張修理専門
(新潟駅南地区限定)
動く自転車屋

森田 敏明
〒950-0941
新潟県新潟市中央区女池7-10-3
Mobile 090-9009-4709
URL <http://jcr-niigata.com>



感動と夢、そして感謝



21世紀の生涯学習を推進する
株式会社アルファブライト
〒950-2012
新潟県新潟市西区小針台1-15
Tel.025-234-1000, Fax.025-234-1002
URL <http://alpha-bright.co.jp>

青年海外協力隊サポーター

業務用食器・厨房用品・贈答用品



代表取締役 小泉 勝
〒954-0046
新潟県見附市双葉町2-4
Tel. 0258-62-1265, Fax. 0258-62-7078

世界にはばたこう、日本の心!

そやま接骨院
院長 楚山 恭男

〒940-1165
新潟県長岡市水梨町1106-15
Tel. & Fax. 0258-22-3654

協賛広告
募集中!

(本紙とHPへの掲載で年1万円)



にいがた青年海外協力隊を育てる会
The supporting Organization of JOCV NIIGATA

今年も本当に寒い寒い冬でしたね～。いかがお過ごしでしたでしょうか? 私こと、この寒さの中、学位論文作成のため冬籠りしておりました。そしてこのたび無事に修了できました。気がつけば任国から帰国して4年が経ちますが、現地の人々から学んだことは、その後の進学と研究活動のきっかけとなりました。これまでの学びを今後、私なりに社会還元していきたいと思ひます。
(พรักไทย)